

圭陵会FAXニュース

発行所:岩手医科大学圭陵会
 発行人:石川 育成
 編集人:酒井 明夫
 連絡先:TEL019-624-8386
 :FAX019-624-8380
 e-mail :info@keiryokai.gr.jp

第8号内容

- ・実習・講義で3学部連携
岩手医大 総合的人材育成へ
- ・睡眠医療科あす開設
岩手医大附属病院 研究・教育体制を強化
- ・遠隔病理診断を実証実験
衛星利用で岩手医大 東京、沖縄と結ぶ

実習・講義で3学部連携

岩手医大 総合的人材育成へ

岩手医大(小川彰学長)は医学部、歯学部、薬学部で「縦割り」となっている専門教育について、解剖学などの似通った実習や講義を一緒に行う新カリキュラムを来年度から導入する。学生、教員の交流や研究、診療面での連携を強め、新しい視点を備えた医療人材を育てることが目的。矢巾キャンパス移転計画と合わせて実施する。医療系総合大学の強みを生かす全国に先駆けた取り組みで成果が注目される。

岩手医大によると医学部、歯学部、薬学部の1年生、薬学部の1～4年生が学ぶ矢巾キャンパスに来る4月から医学部、歯学部の2～4年生が移転。これに伴い専門教育を行う2年生以上を対象に新カリキュラムを導入する。

医療現場では口と全身の病気の間に密接な関係があり、医学と歯学で互いに応用できる知識や技術がある。薬学の知識は医師、歯科医にとって不可欠だが、薬剤師にも医学・歯学の専門知識は重要だ。

このような観点から新カリキュラムでは医学部の教員が歯学部で教えたり、薬学部の教員が医学・歯・薬3学部の学生を教えるなど似通った分野で連携を強化。病気に対しいろいろな角度から判断や対処ができる医師や歯科

医、薬剤師を育てる。同医大は1年生の教養教育で学部を超えた共通科目を設けているが、医学部、歯学部の2年生以上が学ぶ内丸キャンパス(盛岡市)は各学部を分け隔てる構造が支障となり、専門教育での交流は難しくな

た。これに対し、矢巾キャンパスの施設は3学部で似通った講座が同じフロアに入居。教員室や研究室などは構造壁がない間仕切りだけの大部屋で、設計上も教員や学生が交流しやすく工夫している。同医大の全学教育運営委員会(委員長・佐藤洋一医学部教授)はどの講義や実習が統一可能か検討を進めている。医学部、歯学部共

通の解剖実習を皮切りに、他分野へ広がっていく方針だ。文部科学省によると、教員数などが確保されれば学部を超えた教育は可能。文化系学部では珍しくないが「医療系大学ではあまり聞いたことがない」と(大学設置室)という。小川学長は「学部間の連携は学生の意欲を高め、研究や診療面での相乗効果を生み出し、総合力ある人材を育てる。全国の大学に先駆けて成果を挙げ、モデルケースにした」と抱負を語る。

睡眠医療科あす開設

岩手医大 研究・教育体制を強化 付属病院

盛岡市の岩手医大付属病院は、新たな診療科として睡眠医療科を7月1日開設する。睡眠に絡む病気はこれまで症例ごとに各診療科で対応してきたが、総合的に診断・治療する。これに合わせて同大医学部医学科内に睡眠医療学科を設け、研究・教育の充実を図る。

睡眠が絡む疾病は多岐にわたる。睡眠時無呼吸症候群、不眠症、過眠症のほか、関連した胸の痛み、けいれん、夜間頻尿などだ。一般的には呼吸器

科、耳鼻咽喉科、精神科といった診療科ごとに振り分けられて受診している。開設する睡眠医療科は、症状を幅広く診断する。眠っている間の

「終夜脳波」なども含め、多角的に検査。隠れた病気の発見にもつなげる。単に不眠による頭痛と誤っていても、重大な疾病が起因しているケースがあ

る。不眠と内臓疾患が悪循環を来していることも少なくない。睡眠医療科は睡眠医療認定医を中心に4人の医師で立ち上げる。現在の呼吸器・アレルギー・膠原病内科の一部に専用スペースを設け、総合的な診療窓口となり、歯学部を含めた他診療科とも連携す

る。

同大に科内専攻的に設ける睡眠医療学科は、臨床医学の授業を受ける学部5、6年生や大学院生が対象。「教育」、「研究」により、病院の「診療」と合わせ学問の体系化を図る。東北の大学医学部・医大では初めての試みだ。

同学科長と病院の診療部長を務める桜井滋准教授は「眠りに絡む障害や疾病は多い。睡眠という総合的なくくりでとらえた診察、教育が求められている」と意義を説く。

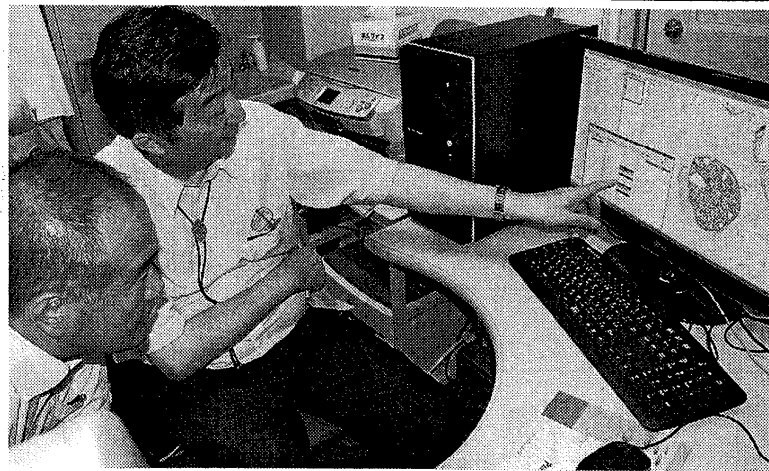
睡眠を専門とする医療機関は県内には少ない。一方、潜在的な患者は多いとみられ、成果が期待される。

遠隔病理診断を実証実験

衛星利用で
岩手医大 東京、沖縄と結ぶ

岩手医大医学部病理学講座の沢井高志教授(62)らの研究グループは30日、宇宙航空研究開発機構(JAXA)と連携し、超高速インターネット衛星「ぎずな」(WINDS)を利用した遠隔病理診断の2度目の実証実験を行った。盛岡市の同大

と東京の国際医療福祉大三田病院、沖縄の琉球大学の3地点をWINDSで結び、病理画像診断を検証した。岩手医大と同大矢巾キャンパスを結んだ1月の実験結果を基に、今回は遠隔地、多地点



受信した病理画像を見ながら協議する沢井高志教授(左から2人目)

実験では10種類の症例画像を伝送した。それぞれの地点で機器の操作性や画像の鮮明性、音声などを確認。食道がんをどこまで切除するか、白血球細胞かどうかなどを具体的に協議した。沢井教授は「時差は少しあるが、画像は鮮明で診断は十分できる。地理的制約がない

ため、海外と実験する価値があり、国際的貢献につながる」と語り、JAXAの小川恵美子開発員(25)は「医療分野での活用も有効であることが確認できた。応用の幅もありそうだ」と期待した。実験は2009年度に2年計画でスタートした。

H22.7.1 岩手日報

http://www.iwate-np.co.jp/cgi-bin/topnews.cgi?20100701_10

圭陵会FAXニュース

圭陵会広報局では会員の相互理解を深めるために、岩手医科大学内の情報を`圭陵会FAXニュース`として配信致しております。圭陵会支部長におかれましては、圭陵会会員への情報連絡をお願いします。なお、圭陵会ホームページよりPDF形式でダウンロード頂けます。

圭陵会ホームページアドレス <http://www.keiryokai.gr.jp/>